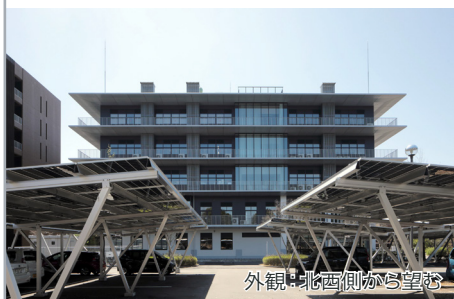


広島大学 Science Knotが完成しました。



外観：西面アプローチ



外観：北西側から望む



内観：交流展示ロビー

CONCEPT

先端研究機能の拠点形成
×アンダーワンルーフによる研究交流

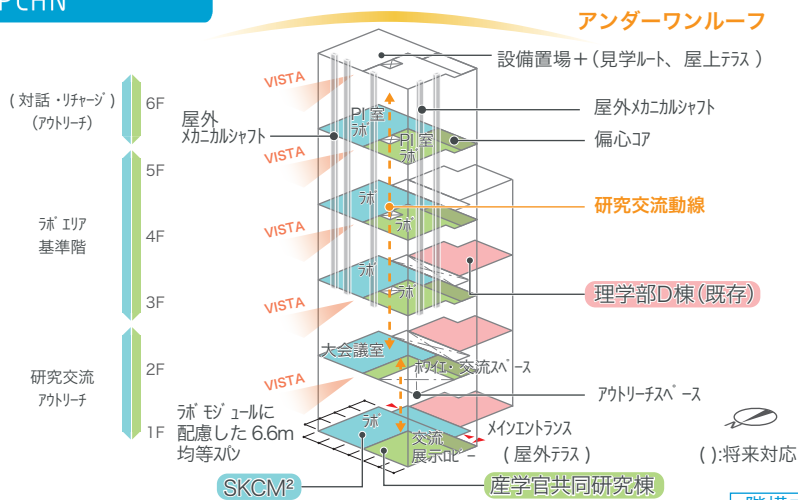
大学東広島キャンパス内に、産学官共同研究棟、SKCM²棟を合築一体にて整備し、アンダーワンルーフによる研究交流促進を図るべく、計画されました。

（館名：広島大学 Science Knot）

産学官共同研究拠点は、半導体・超物質研究を核としたオープンイノベーション創出を目的とし、大学間連携・国際展開・社会実装の加速を図る施設として企画・立案されています。

SKCM²棟は、WPI（世界トップレベル研究拠点）プログラムにもとづく「持続可能性に寄与するキラリノット超物質拠点」として、国内外から研究者を結集し、“世界から目に見える”高水準の研究を実現する施設として計画されました。これら各研究機能をオープンスペース・吹抜等を介し各階にて繋ぎ、また、其々の研究活動スペースを、オープンな設えとすることで、研究交流を促す仕掛けを全館に渡り展開しています。

PLAN



DATA

敷地面積	494,542.96㎡
建築面積	1,611.68㎡
延床面積	6,115.53㎡
	53,278.29㎡（既存棟含む）
建ぺい率	24.99%（指定30%）
容積率	67.50%（指定100%）
構造・規模	S造、地上6階、直接基礎
最高高さ	28.30m
軒高	27.54m
階高	1.3～6階4.5m、2階4.8m
天井高さ	2.70m
主なスパン	6.6m×6.6m
設計期間	2023.08～2024.12
建物竣工	2027.01（全体竣工）
設計	日総建・総合設備コンサルタント・プランテック設計共同体

146

TOPICS

大学中央口・キャンパス主動線側からのVisibilityに配慮した配置・構え

キャンパス北側のアクセス道路「ブルバール」・大学中央口側からのVisibilityに配慮した施設配置とすることで、広島大学の研究機能を象徴し、また学外からのアクセス性を高めています。

キャンパス内の主要動線軸に沿ってメインエントランス・動線貫通型アトリウムを構える機能配置とすることで、Visibility・アクセス性向上に配慮しました。

隣接する理学部D棟との渡廊下接続、敷地を接する駐輪場スペースへの将来配棟想定など、学内機能連携・拠点の将来発展性にも目配りした計画としています。

▶ <http://www.nissoken.co.jp>



配置図